

一からのやり直しですが必ず町を復興させます

移動何でも相談会
宮城・名取



被災者を気遣いながら相談を受ける 水尻強志医師

5月28日、避難所の名取市文化会館で、3回目になる移動何でも相談会が開催され、避難所や仮設住宅などから市民950人が訪れました。民医連からは、全国及び宮城からの参加者合わせて104名が参加しました。

セントラルキッチン宮城では、今回も牛丼300食、梅ご飯100食、ピビンバ350食、フルーツポンチ300個を用意しましたが、やはり好評で1時間もしないうちにすべてなくなりました。高橋春子さん(70)は、自宅が流され現在は仮設住宅で過ごしていますが「とてもおいしかったです。牛丼なんて食べる事ができないので、本当にありがたいです」と話していました。閉上(ゆりあげ)で自宅が流された30代の女性は、子どもさん二人とみえられ大きな袋いっぱい支援物資を頂きました。「震災直後からおむつをどう確保するのかが大きな心配事でした。いままおむつ代に1週間に3~4千円かかるので大変助かります」と話していました。健康相談や生活相談には、医師や看護師、MSWが相談にのりました。

佐藤茂夫さん(78)は、閉上6丁目で長い間、“漁亭浜や”で新鮮な魚介類を提供し、遠方からもお客さんが来ていましたが、お店は全て流されてしまいました。津波のときは閉上大橋付近にいて助かりましたが、人や家が流れてきて、地獄のようだったと話してくれました。長い間避難所生活をしていましたが、明日、仙台市郡山に引っ越します。閉上のために何かしなくてはと、理事長と「ゆりあげ港朝市」をいち早く再開、自身もあすと長町で7月から数軒で仮の店舗で営業を再開する予定とのこと。「一からのやり直しになるが、町の人と協力して、必ず閉上に戻って復興させたい」と語る顔には、うっすら涙と強い決意がみなぎっていました。



たくさんあるから食べていってね



高橋春子さん

佐藤茂夫さん



大阪民医連から応援メッセージの横断幕が宮城民医連に届きました。これからも「全国はひとつ」を合言葉にご一緒にがんばりましょう。

JR仙石線 あおば通駅~高城町まで再開



仙石線下馬駅 後方の建物が坂総合病院

5月28日、東日本大震災で運転を見合わせていた仙石線東塩釜~高城駅間の運転が再開された。日本三景の一つ松島の玄関口となる松島海岸駅も含まれることから、観光による町の復興につながると期待される。瑞巖寺の拝観や松島湾遊覧観光船も営業を再開している。ただ、高城駅~石巻駅間は施設の損傷が激しく、復旧の目処はたっていない。